

平成26年度京都市青少年活動推進協議会

1. 日 時 平成27年3月13日（金）午前10時～12時

2. 場 所 職員会館かもがわ

3. 出席者（敬称略）

安保 千秋（副会長）	公益財団法人京都市ユースサービス協会理事長
雨宮 万里子	京都市少年補導委員会理事
岡本 雅之	日本労働組合総連合会京都府連合会青年委員会委員
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表
坂井 義宏	京都家庭裁判所次席家庭裁判所調査官
佐々木 佳代	同志社女子大学名誉教授
澤井 早和乃	京都市保護司会連絡協議会会長
野田 正人	立命館大学産業社会学部教授
長者 美里	京都光華中学校・高等学校校長
中川 多鶴子	京都府府民生活部青少年課長
深尾 昌峰	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター常務理事
松宮 哲（代理）	京都府警察本部少年サポートセンター所長
山本 智也（会長）	京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学部教授

4. 会議の概要

- （1）会長及び副会長の選出について
- （2）はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプランの概要について
- （3）行動計画の見直しについて
- （4）その他

5. 会議で出された意見等（要旨）

- （1）会長及び副会長選出
 - ・会長 山本 智也 委員
 - ・副会長 安保 千秋 委員
- （2）はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプランの概要について
（意見・質問等なし）

(3) 行動計画の見直しについて

- ・ 行動計画の見直しについては、25年度から専門委員会で議論しているが、大幅な見直しはしないというのがこれまでの基本的な考え方である。
- ・ 今後具体的な枠組みをどうしていくのか、どのような取組をすれば改善が図れるのか議論していきたい。

①目標数値の見直し

- ・ 数値目標については、大きく見直す必要があると考えている。取組実績に基づく数値目標では、若者が生き方の多様な価値観をどのように形成できたのかが見えづらい。そのためにも、青少年の意識や行動に関する調査結果に沿って、もう一度見詰め直した方がよい。
- ・ 審議会や青少年モニター制度の達成度合いの目標数値を見直すのではなく、若者の市政参加の方法が多様になっている現状に合わせ、様々な指標を考えないといけない。
- ・ 子ども・若者支援の目標数値を、単に変化しているだけで捉えず、改めて検討した方がよい。

②特定の重要項目の見直し

- ・ 若者が自分たちの声を市政に届ける場をどう作っていくか。青少年モニター制度の問題点の見直しも含め、全体の会議とは別に部会で議論することを提案する。
- ・ 青少年の市政参加について、高校や中学校に出向いて意見を聞くのはどうか。単発ではなく、系統立てて実施し、定着させていく方法を考えることはできないか。
- ・ 青少年活動センターでの学習支援事業の数を増やしていくことは非常に大切だと思う。また、薬物、いじめ問題、スマートフォン等の出前授業は非常に反響がある。幼い頃から予防策を学ぶことは重要であると思う。
- ・ 学習ボランティアについては、自分の視野の中に高校に行くことが入っていない、あるいは勉強の意味が全くわからないという生徒に対し、学習の動機付けのところから丁寧に対応しなければならないと感じている。
- ・ 多くの子どもたちが潜在的に問題と隣接していると考えられる昨今、子どもの貧困や、問題を抱える子どもへの支援については、行動計画より上のレベルで予防の側面を議論することが必要である。

この春に生活困窮者の支援に関する新たな法律ができるが、子どもたちの問題の背景としての家族問題に、どこからアプローチできるかが課題である。全体の構造

としても、指標としても、どういう着眼点で支援していくのかを考える必要がある。

- ・ 青少年という概念が、行政用語的な側面があり、問題のある子という感覚を持つ傾向が学生に対するアンケート調査でも見られることから、イメージしにくいのではないかと思う。また、年齢の定義自体も再考の必要がある。

③新たな取組の追加

- ・ タイムリーに対応する必要がある取組について、高校中退のリスクを抱えている子ども・若者に関しての取組をしている団体との連携も考えていただきたい。
- ・ 子どもの貧困に関わる指標については、国との連携を図るとよいと考える。また、薬物の問題等で学校に出向くに当たっては、教育委員会との連携を図る必要がある。
- ・ どこからどういう刺激やプログラムを受けられるのか、地域団体等の活動も含めて総合的な視野で考えていくとよいと思う。
- ・ 市民生活実感調査というのは若者に聞かないと本当のところはわからない。他の方法で知る必要があるかと思う。
- ・ 市民生活実感調査は、一般の社会において、市民がどのように問題を考えているかが明らかになる重要な指標だと思う。成果を測る指標は大事であるが、指標だけを追い求めるのではなく、成果につながるような実効性の高い計画を立て、そのうえで指標を見直す必要がある。